

病虫害発生予報 第4号(7月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所
TEL 0736(64)2300

<予報の概要>

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	いもち病 紋枯病 縞葉枯病	並並 紀北:並 紀中・紀南:並	野菜全般	ミカンキロアサミウマ シロイチモシヨトウ	並 やや少
	ニカメイガ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並並並 やや少 並並	カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアサミウマ ゴマダラカミキリ	並並並並並
ウリ類	疫病 べと病 うどんこ病 つる枯病	並並並	カキ	炭そ病 うどんこ病 円星落葉病、角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	並 やや少 やや多 並
トマト、ナス、ピーマン、シシトウ	疫病 モザイク病	並並	モモ	せん孔細菌病	やや少
野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアサミウマ	並並並	果樹全般	カメムシ類	やや多

気象予報

1か月予報（予報期間 6月23日～7月22日 大阪管区气象台）

<予想される向こう1か月の天候>

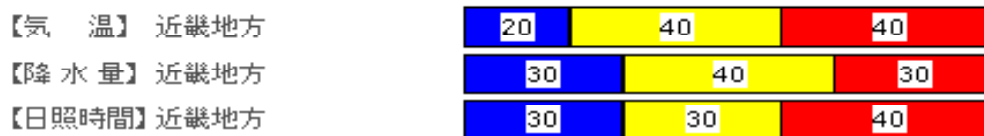
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (°C)	月降水量 (平年値) (mm)
7月	和歌山 27.0	和歌山 145
	潮岬 25.5	潮岬 291

I. 水 稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月3半旬の紀南地域(田辺市以南)の早期水稲における発病株率は0%(平年0.1%)と平年並であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 補植用苗は葉いもちの発生源となるので、早急に処分する。

② 常発地及びコシヒカリ、キヌヒカリ等の罹病性品種では発病しやすいので初発時期に注意し、発生が見られたら直ちに薬剤防除する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月3半旬の紀南地域(田辺市以南)の早期水稲における発病株率は0%(平年0%)と平年並であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨明け後の高温期から病勢が急激に進展するので、常発地や前年の多発ほ場では幼穂形成期～穂ばらみ期の防除を徹底する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 紀北地域：多、紀中・紀南地域：並

(2) 予報の根拠

① ヒメトビウンカ(越冬世代)のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市で16.1%(前年14.7%)、かつらぎ町で15.9%(前年12.7%)であった。地域の保毒虫率が10%を越えると発病株が多くなるとされている。

② 6月3半旬の紀南地域(田辺市以南)の早期水稲における発病株率は0%(平年0%)と平年並であった。

③ ヒメトビウンカの7月の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ヒメトビウンカの防除を行う。

4. ニカメイガ(紀北地域)

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市の6月1～4半旬までのフェロモントラップでの誘殺数は0頭である(平年0.2頭)。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 7月上旬の被害茎率が6.2%以下なら防除の必要はない。

5. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月3半旬現在、紀南地域の早期栽培では、発生を認めていない(平年25株あたり0.3頭)。

② 予察灯による6月1～4半旬までの誘殺数は上富田町0頭(平年0.4頭)、

那智勝浦町1頭（平成0.3頭）、紀の川市5頭（平成2.6頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アドマイヤー箱粒剤等を育苗箱施用した6月田植えのほ場では、7月の防除は特に必要としない。

6. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域の早期栽培における発生は、25株あたり0頭（平成2.4頭）であった。
- ② 予察灯による6月1～4半旬までの誘殺数は上富田町271頭（平成1.0頭）、那智勝浦町20頭（平成11.5頭）、紀の川市3頭（平成10.2頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカに準ずる。

7. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 やや遅 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域の早期栽培では、発生を認めていない（平成25株あたり11.8頭）。
- ② 予察灯への初飛来は、上富田では6月2半旬（平成6月2半旬）と平成並であったが、紀の川市、那智勝浦町では6月4半旬現在、飛来を認めていない（平年初飛来時期：紀の川市6月2半旬、那智勝浦町6月1半旬）。
- ③ 予察灯による6月1～4半旬までの誘殺数は、上富田町18頭（平成80.2頭）、那智勝浦町0頭（平成44.4頭）、紀の川市0頭（平成34.4頭）と平成に比べてやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカに準ずる。

8. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域の早期水稲では、発生を認めていない（平成25株あたり0頭）。
- ② 予察灯による4月から6月4半旬までの誘殺数は、上富田町0頭（平成0.2頭）、那智勝浦町0頭（平成0.1頭）、紀の川市0頭（平成0.3頭）と平成並である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカに準ずる。

9. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 6月3半旬の紀南地域の早期水稲では、発生を認めていない（平成25株あたり被害葉数0葉）。
- ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱への6月1～4半旬の誘殺数は、0頭（平成0頭）である。フェロモントラップへの誘殺数も0頭（過去5年の平均0頭）である。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼穂形成期前後の被害は収量に影響するので、今後の予察情報に注意する。

Ⅱ．野 菜

<ウリ類>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、紀の川市で0%（平年0%）、日高地域で0%（過去4年間の平均0%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

2. べと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、紀の川市で36%（平年45%）、日高地域で83%（過去3年間の平均65%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を良くし、湿度低下を図る。

② 露地栽培では排水を良くし、薬剤を予防散布する。

3. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 施設栽培キュウリにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、紀の川市で27%（平年35%）、日高地域で100%（過去3年間の平均65%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、他系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

4. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 露地栽培スイカにおける発生ほ場率は6月4半旬現在、紀の川市で0%（平年0%）、日高地域で0%（過去7年間の平均0%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 降雨にともない株元から茎葉に病勢が進展するので、梅雨期の防除に重点を置く。

<トマト、ナス、ピーマン、シシトウ>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市の露地栽培ナスおよび露地栽培シシトウでは6月3半旬現在、発生は認められていない。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨末期の多雨で急激に病勢が進展するため、降雨後は早急に防除する。
- ② ほ場の排水を良くし、多湿にならないようにする。

2. モザイク病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀の川市の露地栽培ナスおよび露地栽培シシトウでは6月3半旬現在、発生は認められていない。
 - ② 7月のアブラムシ類の発生量は平年並と予想される。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① アブラムシ類の防除を徹底する。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の露地栽培ナスでは6月3半旬現在、モモアカアブラムシの寄生葉率10%（平年6%）、ワタアブラムシ4%（平年6%）であった。
 - ② 紀中地域の露地栽培スイカでは6月5半旬現在、ワタアブラムシの発生は1葉あたり0.1頭（平年0.6頭）であった。
 - ③ 黄色水盤（紀の川市）への6月1～4半旬の飛来数は、34頭（平年131頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ワタアブラムシ、モモアカアブラムシは、ともに薬剤感受性の低下がみられるので、同一薬剤の連用は避ける。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月3半旬現在、カンザワハダニの発生は認めていない（平年発生ほ場率22%、平年寄生葉率4.4%）。ナミハダニは発生ほ場率10%（平年4.4%）、寄生葉率1.0%（平年0.4%）であった。
 - ② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月3半旬現在、カンザワハダニの発生ほ場率44%（平年41%）、寄生葉率3%（平年9%）であった。ナミハダニの発生は認めていない（平年発生ほ場率12%、平年寄生葉率3.6%）。
 - ③ 紀中地域の露地栽培スイカでは6月5半旬現在、カンザワハダニは1葉あたり0.2頭（平年0.3頭）、ナミハダニは1葉あたり0.1頭（平年0.2頭）と共に平年並の発生であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性対策として、同一薬剤の連用を避ける。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月3半旬現在、発生ほ場率40%（平年33%）、寄生葉率9%（平年13%）と平年並であった。
 - ② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月3半旬現在、発生ほ場率40%（平年23%）、寄生葉率8%（平年4%）と平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生の多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
- ② 施設栽培では、栽培終了後に7～10日間施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀北地域の施設栽培ナスでは6月3半旬現在、発生ほ場率20%（平成16%）、寄生葉率6.0%（平成6.0%）と平成並であった。
 - ② 紀北地域の露地栽培ナスでは6月3半旬現在、発生ほ場率20%（平成26%）、寄生葉率6.0%（平成5.3%）と平成並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ミナミキイロアザミウマの項に準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 紀中地域の露地栽培スイカでは6月5半旬現在、被害果率が1.2%（平成4.0%）と平成に比べやや少なかった。
 - ② フェロモントラップの6月1～4半旬の誘殺数は、紀の川市1頭（平成9.9頭）、御坊市42頭（平成78.1頭）である。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
 - ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉の芯部に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。
 - ③ 施設栽培では、栽培終了後に20日程度施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場における初発は6月4日と平成よりやや遅く、6月中旬の発病果率は無防除区25.0%（平成30.7%）、防除区0%（平成3.2%）であった。
 - ② 6月の巡回調査によると、発病果率は0.8%（平成4.8%）であった。
 - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 枯枝や剪定枝の処理を徹底する。
 - ② マンゼブ・マンネブ剤の場合、前回の薬剤散布からの累積降水量が250mm程度となった時点で散布する。
 - ③ 6月中下旬に散布できなかった園では、ただちに散布する。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 果実発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場（無防除）における6月中旬の春葉の発病葉率は2.7%（平成20.7%）であった。

- ② 6月の巡回調査によると、春葉の発病葉率は0.8%（平年1.3%）、発病園率は25%（平年17%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病園では無機銅剤（葉害軽減のためクレフノン200倍またはアプロン200～400倍加用）を散布する。強風雨に遭う前の予防散布が重要である。
 - ② 罹病葉は果実への伝染源になるので剪除する。
 - ③ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月の巡回調査によると、発生園率は48%（平年50%）、100葉あたり雌成虫数は66頭（平年68頭）、寄生葉率は14.2%（平年15.5%）と、いずれも平年並であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ミカンハダニは高度の薬剤抵抗性系統が出現しやすいので、薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。ただし、高温強日射時の散布は葉害が発生しやすく、7月中旬以降の散布は果実品質を低下させるおそれがあるので、散布は7月上旬までとする。

4. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
発生時期 第2世代1令幼虫初発日 7月6半旬
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場（無防除）における第1世代1令幼虫の初発は5月20日（平年5月16日）と平年に比べやや遅かった。
 - ② 前年10月の巡回調査では、発生園率は3%（平年7%）、寄生果率は0.0%（平年0.4%）であった。
 - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 6月下旬に防除できなかった園では、7月上旬のうちに97%・98%マシン油乳剤の200倍やスプラサイド乳剤40の1,500～2,000倍で防除する。
 - ② 未成熟成虫がみられる場合はスプラサイド乳剤40を1,500倍で散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場（無防除）における6月中旬のトラップへの誘殺数は平年並で、果実寄生は確認していない。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 地域での発生消長調査の結果により、適期防除に努める。

6. ゴマダラカミキリ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県予察ほ場、各地域とも成虫の初発の発生時期は平年よりやや遅く、6月中旬の発生量は平年より少なかった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生園では成虫の捕殺に努めるとともに、登録のある薬剤を散布する。

さらに発生の多い園では7月中旬以降に適用のある農薬を主幹から株元に散布する。

<カ キ>

1. 炭そ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月の巡回調査では、新梢の病斑は認められなかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や発病果実を剪除する。

② 密植園や風通しの悪い場所は発病しやすくなるので、園内の通風・採光をはかり、薬剤をかかりやすくする。

③ 薬剤は発育枝にも十分散布する。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 6月の巡回調査では、発病葉率は「富有」で0.9%（平年4.4%）、「平核無」・「刀根早生」で0.1%（平年0.7%）と平年よりやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬剤を散布する。

② 盛夏期には発病が一時休止するが、好適な気象条件や園地条件によっては発病を繰り返すので、二次伝染の防止に努める。

3. 円星落葉病、角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報根拠

① 前年10月の巡回調査では、「富有」における円星落葉病の発病葉率は18.6%（平年2.0%）、角斑落葉病の発病葉率は36.8%（平年21.2%）と平年よりやや多かった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢の低下が発病を助長するので、肥培管理に努める。

② 円星落葉病の子のう胞子飛散は、7月中～下旬までの降雨後に多くみられるので、この時期に薬剤を定期的に予防散布する。

4. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月の巡回調査では、寄生果率は「富有」で2.0%（平年8.7%）、「平核無」・「刀根早生」で0.5%（平年1.1%）と平年並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本年のフジコナカイガラムシの発生消長は平年並と予想されるので、次の防除適期は8月上・中旬頃になると予想される。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 6月の巡回調査では、発病葉率は1.1%（平年4.9%）と平年よりやや少なかった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防風ネット、防風垣などの耕種的防除を励行する。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 本年の越冬量は、県北部1.1頭（平年0.2頭（極端に越冬量が多かった年を除く））、県南部（有田以南）1.2頭（平年0.3頭（極端に越冬量が多かった年を除く））と、いずれも平年に比べやや多かった。

② みなべ駐在の5月から6月中旬までの予察灯における越冬成虫および新成虫の誘殺数は、やや多かった。

(3) 防除上注意すべき諸点

① 農林水産総務課研究推進室ホームページ内の果樹カメムシ情報 <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/yosatu/kamemusi/kamemusi.htm> や、各地域でのJA等の調査情報を参考にし、対応する。

② 農薬については最新の登録情報（農林水産消費安全技術センターHP農薬登録情報提供システム http://www.acis.famic.go.jp/index_Kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○ **農業環境・鳥獣害対策室ホームページ** <農作物病虫害防除所コーナー>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○ **和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2301)までお願いします。